

目次

はしがき

第I部 長州藩に生まれる

第1章 おいたち

3

1 高杉家の先祖 3

毛利氏に従い萩へ

先祖は安芸か

ルーツは備後か

藩を支える高杉家

2 晋作誕生 8

晋作が生まれた頃

高杉家屋敷について

二人の晋作

外祖父大西将曹

名前の変遷

幼少期の逸話

疱瘡にかかる

高杉家累代墓

3 晋作の師たち 20

吉松淳蔵に学んだか

羽仁稼亭にも学んだか

新旧の明倫館で学ぶ

柳生新陰流を修める

4 黒船来航 25

若殿に接近 江戸行き of 沙汰 ペリー再来 有志大名ではない長州藩主

松陰密航未遂事件 叔父の田上宇平太

なぜ、十六歳の江戸行きは忘れられたか 江戸から帰国

第2章 吉田松陰と松下村塾…………… 35

1 松陰との出会い 35

松下村塾に集う人々 晋作の入門 「同志」として交わる 久坂玄瑞と松下村塾

久坂と晋作を競わせる

2 尊王攘夷 41

長州藩の尊王攘夷 山県太華と松陰の論争

3 日米修好通商条約をめぐる 43

明倫館書生たちの論策 益田君に奉るの書 久坂が知らせた京都情報

高杉家に届いた京都情報 国相府の意見書

4 江戸へ 48

江戸遊学の許可 松陰の送叙 晋作の意見に刺激された松陰 怪しい出来事

大橋訥庵に入門 思誠塾での晋作 松陰への近況報告 孤立する晋作

昌平黉に入る 腐儒を学ぶ 書生寮での生活 海軍への興味 松陰の暴走

5 松陰との別れ 66

草莽崛起 晋作が動けない事情 学問観を一新 方外の志は外遊か

松陰、江戸へ 松陰の獄中書簡 松陰の死生観 松陰、処刑される

第3章 修養の日々……

74

1 萩へ帰る 74

松陰の死を知る マサと結婚 婚礼の日 王陽明を学ぶ 揚椒山全集を読む
松陰の志を継ぐ 明倫館舎長になる

2 航海実習から試撃行へ 84

航海実習 「東帆録」を書き始める 途切れた「東帆録」

3 試撃行に旅立つ 89

久坂玄瑞らの「横議横行」 試撃行へ発つ 江戸出立 加藤有隣に会う
二冊の芳名帳 徘徊浪人に間違われる 日光の滝めぐり 東照宮を批判する
壬生の劍客 高山彦九郎の故郷 上田城下に四泊 象山・松陰のパイプ役
佐久間象山に会う 越前福井 「兵法問答書」と「学校問答書」
三年門を閉じて学ぶ

第4章 国際社会を見る……

108

1 動き始めた長州藩 108

世子小姓役 萩城下での日々 長井雅楽の公武周旋 江戸へ向かう
檜崎弥八郎・久坂玄瑞と共に 久坂と周布の帰国

2 上海渡航の命下る 116

上海行きの話 上海行きが決まる 長崎での日々 千歳丸と幕吏たち
マサへの手紙

3 上海で見たもの

123

上海行きの面々 いよいよ出帆 上海到着 アヘン戦争と太平天国軍

ホテルに移る ガーデンブリッジを見る 中牟田倉之助と英語

荒れる孔子廟 キリスト教を危険視 五代才助と蒸汽船

陳汝欽らとの交流 練兵とアームストロング砲を見る 帰国の理由

蒸汽船を独断で注文

第5章 過激化する長州藩の中で

141

1 公武周旋に反対する

141

京都入り 新藩是が決まる 久坂玄瑞の建言 独歩登天の志 ついに脱藩

再び笠間へ 桂小五郎が頼り 台頭してきた「志士」 世子側近の人事

2 公使襲撃未遂と公使館焼打ち

152

井上聞多と土蔵相模 計画実行まで 神奈川宿で計画中止 世子の教諭

勅使、江戸城へ入る 御楯組血盟書 英国公使館建設 焼打ちのメンバー

焼打ち事件現場 幕府を助けた晋作たち

3 吉田松陰の神格化

166

松陰改葬 玉木彦介が記録する松陰改葬 松陰の神格化 宇野東桜暗殺

芸妓小三のこと

第Ⅱ部 長州藩に引きずられる

第⑥章 奇兵隊結成………

177

1 東を目指す

177

京都は長州藩が席巻

江戸で「一事業」を企てる

晋作も京へ

武勇伝の数々

京都入りした晋作

剃髪して「東行」と号す

「東」に「行」く意味

將軍要撃計画と周布政之助

2 長州藩の攘夷実行

188

堀真五郎と帰国する

帰って来た晋作

長刀を買う

3 「西」での攘夷に巻き込まれる

193

久坂玄瑞らの帰国

外国艦砲撃始まる

晋作、山口へ呼ばれる

奇兵隊創設を提案

奇兵隊結成綱領

隊士が見た軍装

4 下関防御の掌握

203

奇兵隊は武士の軍隊

白石正一郎伝説

国司信濃の相談人となる

晋作がすべて掌握

菊ヶ浜土塁

奇兵隊の暴走

奇兵隊対先鋒隊

宮城彦輔の切腹

第7章 内憂外患

214

1 京都から追われる

214

八月十八日の政変

政權交代起こる

晋作の逆襲

奇兵隊の上京計画

2 進発論に傾く藩

219

新知百六十石を受ける

晋作の岩国行き

進発論と晋作

「奉勅始末」

晋作と来島又兵衛

晋作に対する非難

島津久光暗殺計画

3 獄の人となる

228

晋作の帰国

野山獄中の生活

獄を出る

松陰遺稿を編む

「投獄文記」その後

井上聞多の来訪

国体・大義のための攘夷

禁門の変

4 西洋列強と戦う

240

四万国連合艦隊襲来

晋作、座敷牢を出る

休戦談判始まる

三度目の談判

償金と彦島租借

第8章 長州藩内戦の中で

249

1 恭順謝罪

249

政權交代

吉川監物の登場

萩に引きこもった晋作

御前会議と骨肉の争い

晋作の従兄

2 「俗論派」の主張

255

「俗論派」の主張

奇兵隊の処置

藩主父子の帰萩

第9章 戦争への道

3 九州亡命 260

萩を脱し、山口へ 井上聞多を見舞う 徳地の奇兵隊陣営を訪ねる 博多に上陸
鍋島直正に期待 晋作が田代を訪ねた日

4 平尾山荘伝説 269

福岡に戻った晋作 山荘での晋作 『高杉晋作伝入筑始末』 望東の偶像化
福岡から発した書簡

5 政権奪取 277

晋作の帰国 五卿移転問題 譜代の臣 三条実美に挨拶 新地会所を襲撃
変わる「決起」の地

6 骨肉の争いの果てに 290

征長軍の撤兵 大庭伝七宛の遺書 支援者たち 「討奸檄」
赤禰武人の脱走 ある晋作書簡の疑義 絵堂奇襲 世子の出馬
諸隊の萩包囲

1 秩序の建て直し 302

干城隊と諸隊 長い手紙 「回復私議」 下関開港計画 従者の少年

2 四国亡命 311

根深い攘夷論 日柳燕石という博徒 丸亀の村岡宗四郎 晋作の同行者
亡き師友を偲ぶ

第10章

享年二十九

3 薩長接近 318

再び「正義派」政權 南貞助らの渡英 龍馬來関 招魂場令と招魂祭

薩摩名義で武器購入 白石正一郎救済と下関換地論

4 谷潜蔵の誕生 328

元就になれば勝てる 佐世八十郎との交誼 藩政府に復帰 谷潜蔵の正体

一刀三藩の縁 弟子入り志願の浪士 ユニオン号問題

5 薩長同盟 337

木戸孝允の上京 龍馬とピストル 薩長間の取り決め 赤禰武人の処刑

1 再び海外渡航計画 342

始は処女、後脱兎の如く 弱音を吐く晋作 両花競う 伊藤俊輔と長崎へ

長崎からの手紙と写真

2 蒸気船オテント丸 350

オテント丸に乗り帰関 オテント丸が丙寅丸に 開戦前のあれこれ

3 ついに開戦 354

中岡慎太郎に語った決意 海軍総督となる 大島奇襲

4 小倉口の死闘 361

乙丑丸と龍馬 報国隊も指揮下に 小倉口で開戦 長州先鋒士官の書

大里を奪う 赤坂の激戦 小倉城炎上

5

病床での日々

372

体調の悪化

野村望東救出

小倉戦争の終結

五代才助と山中成太郎

桜山の東行庵

同志たちの来簡

慶応二年の暮

晋作孝養の家

6

終焉、その後

387

病状の悪化

林家に移る

晋作の書

面白きこともなき世に

その最期

家督相続と葬儀

戊辰戦争から脱隊騒動へ

残された家族たち

その後のおうの

消えない「高杉晋作」

参考文献

あとかき

421 407

高杉晋作年譜

425

人名索引

高杉家略系図

